

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・自分の考えや思いを伝え合う活動を多く取り入れている。5、6年生では、英語で会話をするパフォーマンステストや人前で話すスピーチテストを導入することにより、英語に慣れ親しむことができ、「聞く」「話す」ことに対して苦手意識をもっている児童が少なくなってきた。
- ・自分の思いや考えを「書く」ことに意欲的に取り組む児童が多い。

(2) 課題

【低学年】

- ・月に1回の英語の授業だけではなく、ほかの教科でも英語を取り入れたりし、英語が話せると楽しいというのを伝えてきた。多くの児童が興味をもって取り組めるよう、工夫する。
- ・英語で話すことに慣れていない児童がいるので、みんなで英語で歌ったり、ゲームをしたりして、楽しみながら取り組めるようにする。

【中学年】

- ・教科書を使っの英語の学習に慣れていない児童がいるので、指示はゆっくり、細かく出し、多くの児童が取り組めるようにする。
- ・3年生でアルファベットの大文字、4年生でアルファベットの小文字が出てくる。その単元の学習の時だけではなく、多くの機会に触れることができるようにし、5年生になる頃には、文字の形と音が一致するように授業を工夫する。

【高学年】

- ・多くの児童が既習事項の積み重ねができているが、自信がない児童もいるので、新しい単元に入った時は、復習を取り入れ、多くの児童が意欲的に取り組めるように授業を工夫する。
- ・人前で英語で話すことが恥ずかしいと思っている児童がいる。自信をもって英語で話すことができるように、学期の最後には人前でのスピーチを設定し、目標をもって授業に取り組めるようにする。その際、よいところを具体的に伝え、自信をもって、英語で伝えることのできる児童を育てる。